

西木地域審議会
答申書・提言書

平成26年11月

1. 各地域審議会への諮問（共通テーマ）について

諮問テーマ	「所得10%向上の具体策」について
諮問者	仙北市長 門脇光浩
諮問日	平成25年3月6日
答申者	田沢湖地域審議会 角館地域審議会 西木地域審議会
答申日	平成26年 11月 4日

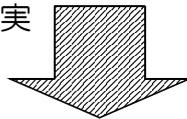
（1）検討の経緯

平成18年度における仙北市民1人当たりの分配所得は、172万円と県内25市町村ある中でも22位という最下位に近いレベルであった。平成21年10月から門脇市政となり、所得10%向上に向けて取り組んでいるが、統計の最新数値である平成23年度の1人当たりの分配所得は187万9千円（平成23年度市町村民経済計算年報より）となり、平成18年度と比較すると約8.5%の所得向上となってはいるが、10%には到達していない状況である。そこで所得向上が停滞している原因を下記項目と考え、各分野に対する具体的な手法を検討した。

【参考 平成22年度の1人当たりの分配所得 182万2千円】

所得向上が停滞していると考えられる原因

- ・人口減少に伴う地域内市場の減少、販売額の減少
- ・交流人口の減少による外貨の減少
- ・高齢化等による労働人口の減少
- ・高齢者、若者、女性、外国籍市民などの労働環境の整備が不十分
- ・地場産業産品や農産物等の地域資源を活かした新商品や、新サービスの開発、販売等の拡大が不充実



原因に対する対策の分類

- ①農業関連：農業基盤の整備と環境づくり、農産物の生産と6次化の拡大
- ②観光関連：交流人口の増加策、国内外の誘客戦略の拡充
- ③商工関連：地元企業の育成、新産業の創出と育成、企業誘致の拡充
- ④産業全般：地場産品のブランド化、販路拡大と支援制度の創設、労働環境の整備拡充

※各地域審議会共通ページ

(2) 所得10%向上に対する具体的な意見

① 農業関連

- ・耕作放棄地を再生、再利用するためのシステムを構築する。
- ・減反対策として薬草を市の重点作物にする。
- ・高齢化による耕作放棄地の対策として、若手農業者の育成や農業生産法人等による担い手の増加を図る。
- ・稲作に偏った経営でなく、園芸作物等も含めた農業の方向性を示す。
- ・新たな品種等の作付けに挑戦できる環境を整備するために、農業の専門家による指導を検討する。
- ・学校給食、介護施設等へ農産物を供給し、地産地消を更に推進する。
- ・西木で生産された野菜等を販売するため、道の駅等の拠点施設を設置する。
- ・農産物の価格を向上させるために、農産物のブランド化や宣伝方法を検討する。
- ・地場産物を使った新商品開発に取り組みやすくするために、6次産品開発に対する補助金等を検討する。

② 観光関連

- ・内陸線利用者に対して、地元団体等による駅での物販等を実施する。地元団体と行政との連絡体制を構築する。
- ・内陸線松葉駅の利用者が増加傾向にあるため、トイレを改修しおもてなし環境を改善する。

③ 商工関連

- ・冬期間の所得向上を図るために、冬に取り組める新たな産業を創出する。(例：古い着物の生地を用いたリメイク商品の開発)
- ・地域技術の継承を応援する「マイスター制度」の周知を徹底する。
- ・仙北市産の草木、軽石、鉢を活用した「盆栽」の商品開発や、盆栽マイスターの掘りおこし等、各種挑戦する方々への応援制度を検討する。
- ・どぶろくを生産し、クリオン等の宿泊施設で提供できる環境づくりを推進する。
- ・西木の山や川を活かして、ドジョウやナマズ等(内水面の魚類)の特産化について検討する。

④ 全般

- ・仕事場や採用枠等を拡大し、若者が地元で定着できるような環境を整備

する。

- ・若者が高齢者を引っばっていく仕組みを構築するため、これまで高齢者が取り組んできた活動内容等について情報交換できる機会を作る。
- ・旧西木村時代の炭生産量日本一を復活させるため、山に愛着を持つような政策を実施する。(例：市産の炭を使ってのバーベキューの実施等)
- ・人口流出等により空き家が増加傾向にあるため、空き家の更なる活用を図る。
- ・人口減少により今以上にお互いを助け合っていく取り組みが必要となる。

2. 地域審議会の独自審議事項（独自テーマ）について

テーマ「かたまえ山森林公園の再生・整備と活用について」

(1) テーマ選定の経緯

西木地区は田沢湖や角館のような大観光地ではないが、湯尻や相内湯は西木の中では観光地として位置づけられており、田沢湖を眺望できるすばらしい場所である。そのような場所があること自体、あまり知られていないのが現状である。また里山ツーリズムのウォーキングやトレッキングは西木が最適であり、西木でしか体験できない観光がある。観光資源を誘客に結びつけるためにも、西木の観光地である「かたまえ山森林公園」を再生し、活用について検討することにした。

(2) 独自テーマに対する具体的な意見

① 宣伝PR等について

- ・かたまえ山森林公園へ誘導するための看板を整備する。
- ・HPでは宿泊施設というイメージが強いが、宿泊施設だけでなく公園であることをアピールし、宿泊者以外の誘客を図る。
- ・田沢湖を一望できる展望台のPR強化。

② 施設の整備等について

- ・ドックランコースの整備を検討し、市民や多様な観光形態にも対応できる施設にする。
- ・キハダを園内の一部に植えてモデル地区にする。
- ・展望台からの景観を保つために支障木を伐採する。
- ・炭焼き小屋から奥にある砂利道について、遊び場等の整備を検討する。
- ・食堂等の設置を検討し、公園、宿泊利用者の利便性を向上する。
- ・かたまえ山森林公園の集客や林業の文化的な継承活動を有効にするため

に、山の幸資料館の充実を図る。

3. 地域審議会の開催状況

年月日	内容
平成25年3月6日	合同審議会
平成25年11月11日	第1回西木地域審議会
平成25年11月19日	第2回西木地域審議会（かたまえ山森林公園視察）
平成26年3月11日	第3回西木地域審議会
平成26年7月7日	第4回西木地域審議会
平成26年9月19日	第5回西木地域審議会
平成26年11月4日	合同審議会

4. 西木地域審議会委員名簿

会 長	門脇 健郎	1号委員
副会長	橋本 左武郎	3号委員
委 員	佐藤 雄孝	1号委員
	橋本 敦子	1号委員
	沢山 純一	1号委員
	武藤 晟平	1号委員
	齋藤 瑠璃子	2号委員
	佐藤 一	2号委員
	阿部 昭司	2号委員
	武藤 清茂	2号委員
	鈴木 富士男	3号委員
	布谷 和好	3号委員
	佐藤 幸	3号委員
	赤倉 祐子	3号委員